

## 初心運転者の運転意識と実態に関する調査研究（平成2年度）

全事故の約12%前後、死亡事故の14%前後が全運転者の6%程度の初心運転者によって起こされている。そこで、平成2年度から3カ年計画で初心運転者の運転意識・態度、運転実態など、車と車社会とのかかわりあいと免許取得後の経過年数と事故・違反について具体的に明らかにし、今後の初心運転者に対する交通安全教育の基礎資料とすることを目的として、交通事故統計分析、アンケート調査等を行った。

- ① 若年者の免許保有者数は全免許保有者数の16.5%を占め、うち免許取得1年未満の者は27.5%である。若年者による死亡事故のうち、免許取得1年未満の者については34%を占めており、若年者の1年未満での死亡事故の確率が最も高くなっている(表)。

区 分	1年未満	1年以上	計	
16～24歳	免許保有者数	2,761,002	7,274,298	10,035,300
	死亡事故件数	1,221	2,356	3,577
	事 故 率	4.4	3.2	3.6
25歳以上	免許保有者数	656,952	50,216,741	50,873,693
	死亡事故件数	131	5,403	5,534
	事 故 率	1.9	1.1	1.1
計	免許保有者数	3,417,954	57,491,039	60,908,993
	死亡事故件数	1,352	7,759	9,111
	事 故 率	3.9	1.3	1.5

(注) 死亡事故件数は、無免許、不明を除いた件数

- ② 総じて女性より男性の方が攻撃的運転傾向が強く、遵法傾向も低いが、男女とも年齢が高くなるほど攻撃的運転傾向は弱くなり、

遵法傾向が高くなっている。男女とも事故・違反のある者の方が、攻撃的運転傾向が強く、遵法傾向は低く、運転時の緊張傾向は弱い。また、ヒヤリ・ハット体験は、攻撃的運転傾向が強く、遵法傾向が低く、運転時の価値傾斜が強く、歩行者保護意識の弱いグループに多くなっている。

- ③ 攻撃的運転傾向が強いグループ、遵法傾向の低いグループは情報収集のミスが多い。依存的運転傾向が強いと運転操作のミスが多い。歩行者保護意識が低いと情報収集のミスが多くなり、判断・意志決定の迷いも多くなり、運転操作のミスも多い。
- ④ 攻撃的運転傾向が強い者ほど、自分の運転技術を高く評価し、自己の運転技術に問題はないとする傾向が強い。遵法傾向が低い者ほど、一般的な走行技術を高く自己評価し、自分の技術を高く評価している。歩行者保護意識が強い者ほど、低速での運転技術(バック、狭い場所での駐車等)を高く評価している。
- ⑤ 一般的な走行技術と低速での運転技術については、女性はともに不得意としている。年齢の高い初心運転者ほど一般走行技術に関して不得意とする傾向が強い。事故・違反のある者の方が、一般的な走行技術、低速での運転技術ともに問題なくできると自己評価し、自分は運転が上手だと思っている。特に、低速での運転技術の自己評価を高く持っている。一般的な走行技術を高く自己評価している者ほどヒヤリ・ハット体験の比率が高い。低速での運転技術がうまくできると自己評価している者の方が、ヒヤリ・ハットの経験が多い。一般的な走行技術と低速での運転技術を高く自己評価しているグループは、判断・意志決定での迷いが少なく、運転操作のミスも少ない。情報収集のミスに関しては、運転技術に自信のないグループの方が少ない。
- ⑥ 女性の方に情報収集のミスが少なく、男性に多い。事故・違反のある者の方が、判断・意志決定の迷いや、運転操作のミスが少ないが、情報収集のミスが多い。